

台湾学生のための沖縄研修 2025

実施期間 2025年7月14日（月）－7月25日（金）



沖縄県立看護大学

国際交流室運営委員会

目次

はじめに	1
沖縄研修 2025 各プログラム	2
オリエンテーション	3
ウェルカムパーティ	3
沖縄文化体験 三線サークル	4
観光 1:那覇市内ツアー	5
講義 1・2「日本における沖縄と台湾の植民の歴史」「沖縄戦」	6
施設見学 1: ウェルケア沖縄 NPO ゆんたくばーめぐみ	6
観光 2:沖縄文化体験 南部戦跡めぐり	7
施設見学 2: タピック沖縄リハビリセンター	8
講義 3 :日本の高齢者ケアシステムと沖縄の現状	9
施設見学 3 : 南部医療センター・こども医療センター	10
施設見学 4 : ファミリーハウス がじゅまるの家	10
観光 3:沖縄文化体験 アメリカンビレッジ&シーパーク北谷	11
観光 4:沖縄文化体験 沖縄ワールド	12
観光 5:沖縄文化体験 美ら海水族館	13
施設見学 5: 那覇市社協 「地域ふれあいデイサービス」	14
文化体験: 茶道サークル	15
施設見学 6: 健康づくり財団アンチエイジングセンター	16
修了式のプレゼンテーション準備	16
施設見学 7: いきがいサポートステーション	17
本学学生との交流	18
お別れランチ会	20
修了式	21
プログラム 評価(台湾の学生)	23
プログラム 評価(本学ボランティア学生)	28
資料 1 プログラムの概要	34
資料 2 プログラム全体のタイムスケジュール	35
資料 3 プログラム(最終日)	41
資料 4 修了証書	42

はじめに

台湾学生のための沖縄研修セミナーは今年で2回目を迎えました。この研修は、本学と台北医学大学、国立台北護理健康大学との国際交流協定の締結に基づき実施されている交流事業です。急速に高齢化が進む台湾の医療従事者や大学関係者は、高齢化社会先進国の日本の医療福祉体制に関心が高いことから、2024年に引き続き、施設訪問に重点を置いたプログラムとしました。今回の「沖縄研修セミナー2025」は2025年7月14日から7月25日の2週間、台北医学大学2名、国立台北護理健康大学5名の合計7名の参加がありました。

今回の「沖縄研修セミナー2025」の評価として、沖縄の医療福祉施設見学および沖縄の文化体験については8割の台湾学生が満足と回答していた。去年に引き続き、ご協力いただいた施設には心からの謝意を申し上げます。また、本学学生が企画した三味線サークルや茶道サークルおよび週末の沖縄ワールドや美ら海水族館などを通して、本学の学生と台湾の学生はお互いの文化を学び交流を深めていました。

今後とも台北医学大学ならびに国立台北護理健康大学との国際交流が末永く続くことを願っております。このプログラムを発展させて継続していくことでより多くの学生たちの成長の糧になってほしいと願っております。

最後に、今回の沖縄研修の実施にあたりご協力いただいた台北医学大学・国立台北護理健康大学の国際交流担当の方々、こころよく訪問を受け入れていただいた施設の皆様および本学の学生、経費の捻出にご協力いただいた沖縄県立看護大学事務局の方々、資金提供をいただいた沖縄県立看護大学後援会、国際交流助成金を提供いただいた沖縄県看護学術振興財団にお礼を申し上げますとともに、教育業務を遂行しながら、様々な企画・調整や案内の役割を担った国際交流室運営委員会のメンバーに感謝いたします。

<ご協力いただいた施設(実施順, 敬称略)>

ウエルケア沖縄 NPO「ゆんたくばーめぐみ」、タピック沖縄リハビリテーションセンター病院、南部医療センター・こども医療センター、ファミリーハウス がじゅまるの家、那覇市社協地域 ふれあいデイサービス、沖縄県健康づくり財団 アンチエイジング医療センター、いきがいサポートステーション

沖縄県立看護大学
国際交流室運営委員会
謝花小百合

OPCN Program
for Taiwanese Students 2025

各プログラム企画の実施記録

2025年7月14日(月)

オリエンテーション

(担当:山口賢一)

オリエンテーションでは、担当者の山口賢一准教授により本プログラムの概要が説明され、参加学生7名の自己紹介が行われた。その後、本学の免責事項を記した「ASSUMPTION OF RISK AND RELEASE」および当映像の使用許可を求める「Model Release Form」を配布し、参加学生が署名した後に文書を回収した。また、タクシー代とお弁当代を事前徴収することの説明をし、一人あたり8,300円のデポジット(前払い金)を回収した。

オリエンテーション終了後、本学のキャンパスツアーを行い、図書館、ラーニングコモンズ、体育館、エンジェル、講義室などとそれらの機能について紹介した。

ウェルカムパーティ

(担当:山城綾子・有銘恭子)

研修1日目。オリエンテーションの後、本プログラムの日程説明と、担当者の紹介が行われた。教員も英語で自己紹介し、和やかな雰囲気であった。

その後、研修生挨拶、各々の大学について紹介してもらった。パワーポイント資料が用意されており、自身の大学紹介だけでなく、台湾の紹介や台湾で抱える健康に関する問題などが説明された。



台北医学大学と国立台北護理健康大学の学生



台湾の医療と看護についてのプレゼンテーション



ウェルカムパーティでの歓談の様子

2025年7月14日(月)

沖縄文化体験 三味線 OPCN 学生との交流:三線サークル

(担当:知念久美子)

三線サークルの学生4名が台湾の学生と三線を通しての交流を行った。三線サークルの学生による「安里屋ユンタ」「ていんさぐぬ花」の演奏を披露してくれました。その後、三線サークルの学生の指導のもと、三線に触れ、「きらきら星」を練習。最後は、「きらきら星」を披露できるまでになっていた。はじめは、初めての体験で戸惑っている様子だったが、三線サークルの学生の片言の英語とジェスチャーで「工工四」を理解し、どんどん弾けるようになっていました。三線サークルの学生も徐々に打ち解け、最後はもっと交流したかったや楽しかったと感想が聞かれた。



三線サークルの本学の学生と台湾の学生の交流

台湾の学生が工工四を見て、三線を弾く様子



楽しい三線を弾き終えて、ハイ！ポーズ

2025年7月14日(月)

観光1:那覇市ツアー

(担当:山口賢一)

本学の教員2名(佐伯宜久、山口賢一)の引率で、那覇市内観光を行った。行先は波上宮、波の上ビーチ、対馬丸記念館、牧志公設市場など。本プログラムには平和学習も含まれており、昨年度から対馬丸記念館の訪問を行っている。



那覇市ツアーで対馬丸記念館前での台湾学生

2025年7月15日(火)

講義1 「日本による沖縄と台湾の植民の歴史について」

講義2 「沖縄戦について」

(担当：山口賢一)

山口賢一准教授により講義が行われた。1つ目の講義では、日本による沖縄と台湾の植民の歴史について、特に両植民地のガバナンスにおける医療機関の働きについての考察が紹介された。2つ目の講義では、琉球王国時代から現代に至る他国・他地域との交流の歴史の中で、どのように沖縄文化(例えば紅型や三線、やちむん)が育まれてきたかを紹介した。

施設見学1: ウェルケア沖縄 NPO ゆんたくば～めぐみ (担当:有銘恭子)

自立高齢者の社会参加寿命の延伸、健康寿命の延伸を目的に令和5年5月に開設された首里儀保町にある地域サロン「ゆんたくば～めぐみ」を訪問した。運営担当の阿波連愛香さんを中心に地域の方々が集まる場として活動している。歩いて行ける距離での居場所づくりとして、「互近助」機能を構築。地域の方々が集まり、各々の得意なことを活かしながら互いに助け合う姿がみられた。また、高齢者だけでなく不登校児や自立支援就労対象者などの地域で生きづらさを抱えた人々にとっても居場所となっていることがわかった。サロン近くにある共同売店のような役割を果たす「知念商店」も見学予定だったが、今回は見学できなかった。しかし、利用者から普段の様子やサロンをどのように活用しているかという話を聞くことが出来た。学生からも積極的に質問もあり、有意義な時間となった。



利用者の方に体操を教えてもらっている様子



利用者の方から長寿の秘訣など話を聞く様子

2025年7月16日(水)

観光2: 沖縄文化体験 南部戦跡めぐり

(担当: 山口賢一)

この日は、山口賢一准教授の引率で、平和学習のために南部戦跡巡りを行った。訪問先は旧海軍司令部壕、ひめゆりの塔、平和祈念公園。前日の講義では、沖縄の歴史の一部として沖縄戦について学ぶ機会もあったため、この日の戦跡巡りでは研修生から多くの質問が出され、活発なディスカッションが展開された。



沖縄県平和記念資料館前での台湾学生

2025年7月17日(木)

施設見学 2: タピック沖縄リハビリテーションセンター病院 東南植物楽園

(担当: 知念久美子・眞浦有希)

医療法人タピックでは、管理部 部長宮里さんから法人に関する概要説明、看護部長 金城さんからは沖縄リハビリテーションセンター病院で行われている看護の特徴に関して説明があった。その後、各部署に施設見学。「看護体制はどうなっているのか?」「入院期間は何日なのか?」など多くの質問があがっていた。また、放射線部門では MRI の磁気の威力に驚き!! 入院患者さんの作品に感銘を受けていた。金城部長のミニクイズも盛り上がり、沖縄のお菓子をもらい、みんなで分けていました。



病院のスタッフとの記念撮影



説明を真剣に聞いている台湾の学生

東南植物楽園では、植物セラピスト 仲井間さんによる、東南植物楽園の概要と植物セラピーの取り組みに関する説明があった。東南植物楽園と台湾とのつながりや植物セラピー療法について知ることができた。雨天にもかかわらず、バスで園内を散策し、かわいいカピバラにも会え喜んでいました。



動画での説明に聞き入る



雨天のなか、カピバラとのふれあい(東南植物楽園)

2025年7月18日(金)

講義3:「日本の高齢者ケアリングシステムと沖縄の現状について」

(担当:山口賢一)

この日は、老年領域の田場由紀教授に「Japanese caring system for elderly people and the current picture in Okinawa」と題した講義をご提供いただいた。台湾の学生は事前に、台湾の医療事情をまとめて講義に臨み、日本と台湾の医療の違いなどを意見交換が行われ、有意義な時間となった。



台湾の学生は日本の高齢者のケアリングシステムを受講

2025年7月18日(金)

施設見学3:南部医療センター・こども医療センター (担当:知念久美子・屋宜佳成)

沖縄県立南部医療センター・こども医療センターでは、センターの概要や施設見学、離島診療所2か所(座間味・北大東)と遠隔システムでつなぎ交流などを行った。「人材不足に関する対策はどうなっているのか?」「離島で看護師一人、何かあったらどうしているのか?」などの質問があった。また、県内唯一の子ども専門の病院であることに興味を持っていました。前日に訪問した沖縄リハビリテーションセンター病院との違い(急性期医療と慢性期医療の違い)がわったようであった。



正面玄関での集合写真



離島診療所と遠隔システムでの交流



見学の様子

施設見学4:ファミリーハウスがじゅまるの家

(担当:屋宜佳成・知念久美子)

ファミリーハウスがじゅまるの家では、「認定 NPO 法人こども医療支援わらびの会」の活動経緯や主な事業の内容、また「ファミリーハウスがじゅまるの家」の施設設立までの経緯や施設の必要性と運営、利用状況などを学んでいた。ちょうど台湾からの旅行者で急な出産や急病で隣接する沖縄県立南部医療センター・こども医療センターに入院となり、がじゅまるの家に長期間滞在するご家族がいたりするケースがあること、また帰国時には想いの詰まった感謝状を頂いたことの感動エピソードの紹介があった。その後、施設見学も行い、最後の挨拶のときには寄付をしてくださった学生もいた。隣接する急性期総合病院である医療センターとの相互的な役割を学ぶことができた。学生からの質問も積極的にあり、有意義な時間となった。



受講の様子



施設見学の様子



集合記念写真

2025年7月19日(土)

観光3: 沖縄文化体験 アメリカンビレッジ&シーパーク北谷

(担当: 山口賢一)

2025年8月に国立台北護理健康大学で開催される研修プログラムに参加予定の本学(OPCN)学生8名が中心となって、この日のエクスカージョンの企画が進められた。アメリカンビレッジでショッピングとランチ、その後、希望者はシーパークで海上アスレチックを楽しんだ。



台湾の学生と本学の学生と沖縄文化体験を通しての交流

2025年7月20日(日)

観光 4: 沖縄文化体験 沖縄ワールド

(担当: 山口賢一)

2025年3月に台北医学大学で開催された研修に参加した本学学生4名が中心となってこの日のエクスカーションの企画が進められた。沖縄ワールドを訪れ、鍾乳洞、エイサー・ショー、文化体験などを楽しんでいた。すでに台湾研修に参加経験のある本学学生が同行しており、台湾研修生とのコミュニケーションもスムーズに取れていた。



沖縄ワールドでの台湾の学生と本学の学生との交流

2025年7月21日(月)

観光5 沖縄文化体験 美ら海水族館

(担当:山口賢一)

この日のエクスカージョンには、研修生7名に加え、本学の学生7名も参加し、美ら海水族館の見学、イルカショーなどを楽しんだ。



美ら海水族館での台湾の学生と本学の学生との交流

2025年7月22日(火)

施設見学5:那覇市社会福祉協議会 地域ふれあいデイサービス

(担当:眞浦有希)

7月22日(火)、台北医学大学および国立台北護理健康大学からの研修生7名が、那覇市社会福祉協議会の「地域ふれあいデイサービス事業」を訪問した。通訳を交えながら、地域包括ケアの実際を学ぶ機会として実施されたものである。

学生たちは、社会福祉協議会の役割、ならびに地域ふれあいデイサービス(通称「ふれデイ」)の目的や取り組み内容について学んだ。「ふれデイ」は、地域の高齢者が身近な場所で安心して交流し、健康を維持できるよう支援する活動であり、職員やボランティアによって運営されている。

当日は、学生たちが参加者とともに体操やレクリエーションを体験し、沖縄民謡に合わせて踊りを楽しむなど、言葉の壁を超えた自然なふれあいが生まれた。学生からは「言葉の壁を心配していたが、自然に交流することができた」「健康管理と交流活動が自然に組み合わせられていた」などの感想が寄せられた。また、職員やボランティアの方々からも「台湾の学生から元気をもらった」との声が聞かれ、双方にとって有意義な交流の時間となった。

この日の様子は、那覇市社会福祉協議会が発行するニュースレター『なは社協だより』(No.213 令和7年9月号)にも紹介されており、地域住民と海外の学生による温かな交流の場として取り上げられている。



デイサービスの参加者と台湾学生の記念撮影



デイサービスの参加者と台湾学生の体操

那覇市地域ふれあいデイサービス

歓迎!! 台湾の大学生が来ました

去る7月23日、ふれデイでは台北医学大学と国立台北護理健康大学からの研修生7名を受け入れ、通訳者と沖縄県立看護大学の教員が通訳をしながら一緒にレクリエーションを楽しみました。

研修期間中、県立看護大学の学生らと共に三線の演奏体験をしたことから民謡や踊りに興味があった様子で、参加した学生からは「沖縄の伝統音楽に合わせた活動が良かったし、参加者と一緒に踊ることができて楽しかった」(Christyさん)、「台湾にも似た活動はあるが、那覇市ふれデイは健康管理と交流活動が自然に組み合わせられており、安心してつながらを感じられるよう工夫されている」(Pham Thi Hangさん)、「言葉の壁を心配していたが、温かい雰囲気とスタッフの皆さんのおかげで、高齢者の方々と自然に交流することができた」(Yo-Yoさん)、「地域の強い連帯感や積極的なボランティア支援の姿を見て、台湾の地域ケアモデル「地域で老いる(aging in place)」という考え方を思い出した」(Maggieさん)など、言葉の壁を気にせずに、温かく迎えてもらい嬉しかったといった、お礼の感想が寄せられました。



なは社協だより

No213 令和7年9月号

2025年7月22日(火)

文化体験 茶道 OPCN 学生との交流:茶道サークル

(担当:山口賢一)

茶道サークルの学生によるお手前の披露が行われ、その後、研修生も抹茶点ての体験をしていた。茶道サークル・メンバーがお世話になっている裏千家の宮城先生のご協力により、茶道具を本学に設置し、本学的な茶道を披露することができた。



台湾の学生と本学の学生と沖縄文化体験を通して交流

2025年7月23日(水)

施設見学6 健康づくり財団 アンチエイジングセンター

(担当:伊波良剛)

沖縄県健康づくり財団を訪ねた。健康づくり財団で保健師として勤務している平良さん、石川さん(本学卒業生)に案内していただいた。施設の概要を説明していただいた後、本館の健診フロア、検査フロア、人間ドック専用フロアや別館のフィットネスジム、アンチエイジングセンターの水中運動専用プール等を見学させていただいた。

施設内には「スパ・カルナ」があり、そこで行われているアロマトリートメントのアロマオイルについて参加者は興味深く質問していた。また、健診後の医師からの結果説明があることについて、台湾とは違うと驚いていた。

昼食は、施設内の食堂「ラウンジ琉菜」にて、地元の食材を中心としたアンチエイジング食を食べた。参加者は、「健康食はとても美味しかったです!」と感想に書いた。また、施設内がとてもきれいで、整理整頓されていたことや、1日に100人以上の利用者がいるにもかかわらず、案内がスムーズで混雑を感じさせなかった等の感想があった。



健康づくり財団前での記念撮影

(午後) 修了式のプレゼンテーション準備

(担当:山口賢一)

25日に行われる最終プレゼンテーションに向けて、テーマ決めと役割分担を行った。本プログラムを通して経験したエクササイズ、文化体験、施設見学を主なテーマとしてプレゼンテーション準備を進めることとした。



プレゼンテーション資料の作成中

2025年7月24日(木)

施設見学7:いきがいサポートステーション

(担当:下中壽美・伊波良剛)

研修 11 日目は、株式会社いきがいクリエーションが運営する訪問看護ステーションを訪ねた。3 階に訪問看護ステーション、2 階にシェアハウス型在宅ホスピス「いきがいの家」、1 階に「よりどころ」がある。「よりどころ」、「いきがいの家」の見学や臨地講義を受けた。医師の訪問診療に 1 名同行し、その他の研修生は近隣にあるいきがいグループの施設見学に行った。

「よりどころ」は、がんの当事者、その家族、友人が予約不要でいつでも相談に来られる場所としてつくられた。他にも難病や介護・認知症、子育てで悩むご本人やそのご家族が利用できる。入った瞬間、木の香りに癒され、窓の外に見える木々の緑に一気に研修生たちもリラックスしていた。心地よい空間で講義を受講した。COO の親泊氏の講義では、病にかかった時に人は役割を失っていくという言葉が印象的でした。終末期の対象者さんのいきがいを一緒に見つけながら寄り添っていくスタッフの姿と幸せそうな対象者さんの姿を動画で見せていただいた。



「もし今日が最後の日だとしたら」講義での質問



昼食後、窓から見える景色に癒されて

いきがい在宅クリニック院長・長野医師より「ユニバーサルホスピスマインド」について、講義を受けた。対象者とのコミュニケーションについて、ロールプレイも交えて説明があった。昨年 7 月にオープンした、シェアハウス型在宅ホスピス「いきがいの家」では、面会制限はなく、自宅のような環境で、家族と一緒にゆっくりとくつろぐことも、好きな時間を過ごすこともできる。冷蔵庫には自分の飲みたい、食べたいものを入れておいて自分の好きな時間に食事をとることができる。いきがいクリニックなどが併設しており、医療機器を使用しながらも、スタッフの支援の中で安心して過ごすことができる。スタッフにお話を伺いながら施設を回り利用者さんの様子も知ることができ、研修生からは夜勤帯のスタッフの体制などについて具体的な質問がでていた。



「いきがいの家」の説明:スタッフの愛犬も一緒に勤務中



講義中の長野医師

2025年7月25日(金)

本学学生との交流

- Asian Health Care Study Circle
- Island Traveling Circle
- Some Games (Introduced by Taiwanese Students)

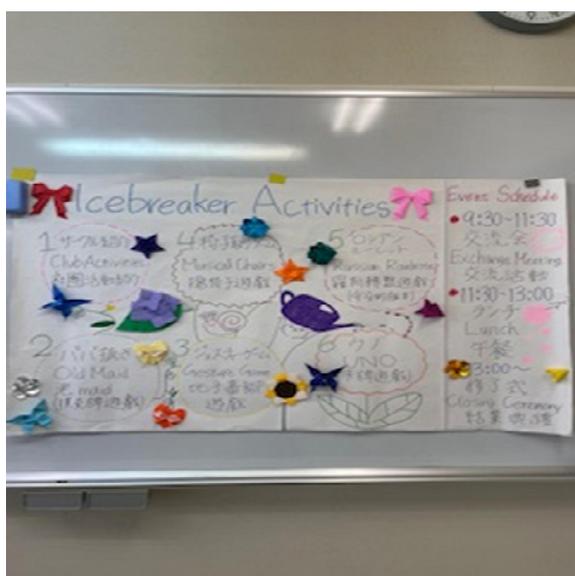
(担当:伊波良剛・有銘恭子)

7月25日の午前中は、本学の学生との交流会を行った。離島たびんちゅサークルとアジア保健医療研究会を中心に学生ボランティアが13名集まり、交流した。

交流プログラム

1. サークル紹介
2. ババ抜き
3. イス取りゲーム
4. ジェスチャーゲーム
5. ロシアンルーレット
6. ウノ

サークル紹介の時は、本学の学生も台湾研修生も少し緊張気味でしたが、イス取りゲームやジェスチャーゲームが始まると大変盛り上がり、一気に仲良くなっていた。



手書きのプログラム



サークル紹介



円陣を組んで団結



イス取りゲーム



ジェスチャーゲーム



全員で記念撮影

2025年7月25日(金)

修了式

(担当:伊波良剛・謝花小百合)

7月25日の午後は、修了式が行われた。

最初に台湾学生による研修成果の発表では、日本と台湾の高齢者施設や高齢者ケアの相違や学びについて、本学の学生に教えてもらった三線や茶道、海水族館、沖縄ワールドなど体験を通しての交流の思い出についてであった。発表は、研修の全日程を学生それぞれが担当を決めて行っていた。

続いて神里学長のあいさつの後、本研修の修了証の授与および記念品授与が行われた



研修成果発表①



研修成果発表②



研修成果発表③



神里学長より挨拶

修了証書授与



修了証書授与の後、記念撮影。研修が無事終了しました。

台湾学生のための沖縄研修 2025

台湾学生を対象としたアンケート調査報告

I 目的

沖縄県立看護大学が主催し、台北医学大学および国立台北護理健康大学の学生を受け入れた「台湾学生のための沖縄研修 2025」が 2025 年 7 月 14 日から 7 月 25 日までの 2 週間にわたって行われた。国際交流室運営委員会が中心となり計画した第 2 回目の本研修セミナーは参加した台湾の学生たちにどのように評価されたのか。それらの情報を収集・分析し、次回以降の研修をより充実させるための資料にすることを目的として調査を実施した。

II 方法

1. 対象者

今回の研修セミナーに参加した台湾の学生全員を対象とした。男子学生 1 名、女子学生 6 名の計 7 名であった。国立台北護理健康大学 5 名、台北医科大学 2 名であった。

2. 調査方法

毎回、研修終了後に QR コードを提示し、回答を求めた

3. 調査内容

各回の研修内容に対する満足度を 5 段階(非常に満足、満足、どちらかといえば満足、不満、非常に不満)で評価を求めた。また、その評価に至った理由など自由に記述を求めた。

4. 調査期間

2025 年 7 月 15 日から 7 月 25 日で実施した。

III 結果および考察

1. 各講義、施設見学、文化体験などの評価について「非常に満足」「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると、回答者全員が満足との回答であった(表 1)

2. 自由記述(表 2)

各講義、施設見学、文化体験の項目ごとの記述をまとめて記載した。

1) 講義について

講義時間は 1 回 60 分から 90 分で構成されており、3 つの講義があった。①沖縄と台湾の日本の植民地、②沖縄戦について、③日本の高齢者ケアリングシステムと沖縄の現状についてであった。

台湾の学生は、「沖縄の歴史についてより理解することができた」や「日本の介護制度について多く学び、台湾と日本の違いもよく理解できた」など講義から多くのことを学んでいた。

2) 施設見学について

今回の施設は、7 か所であった。台湾の学生 7 名に看護教員 1-2 名と通訳 1 名で施設見学を行った。

台湾の学生は、「すべての人が集える地域の居場所づくりという考えに感銘し、日本と台湾の地域ケアについて意見交換でき有意義であった」、「アルコール依存症のための外来クリニックがあることに驚いた」また、高齢者施設では「高齢者も皆さんと一緒に踊ったり、歌ったりすることができ、楽しい時間を過ごすことができた」

「施設においては、台湾の医療施設とは大きく異なっており、興味深かった」などを学んでいた。

3) 文化体験

文化体験では本学の学生が中心となり、台湾の学生と交流をおこなった。

三味線サークルや茶道サークルの学生は、英語で台湾の学生に、三味線の弾き方や茶道の所作を説明し、一緒に活動を楽しんでいた。また、課外活動として、学生が企画を行い、美ら海水族館、沖縄ワールドなどの沖縄での体験を一緒に楽しんでいた。

IV まとめ

今回の「台湾学生のための沖縄研修 2025」プログラムに関して、台湾の学生からは概ね良い評価であった。回答数については日程や研修内容によって少ない項目もあったため、アンケートの方法について、検討が必要である。

表1. 台湾学生のアンケート結果

n=7

		非常に満足	満足	どちらかといえ ば満足	不 満	非常 に不 満
		人(%)	人(%)	人(%)		
	オリエンテーション	5(71.4) ^a		2(28.6)		
講義	① 沖縄と台湾の日本の植民地	5(71.4)	1(14.3)	1(14.3)		
	② 沖縄戦について	5(71.4)		2(28.6)		
	③ 日本の高齢者ケアリングシステムと沖縄の現状	6(85.7)		1(14.3)		
施設見学	① ウェルケア沖縄 NPO 「ゆんたくばーめぐみ」	6(85.7)		1(14.3)		
	② タピック沖縄リハビリセンター・ デイサービス見学	6(85.7)		1(14.3)		
	東南植物楽園	5(71.4)	1(14.3)	1(14.3)		
	③ 南部医療センター・こども医療 センター	6(85.7)		1(14.3)		
	④ ファミリーハウスがじゅまるの家	5(71.4)	1(14.3)	1(14.3)		
	⑤ 那覇市社協 地域ふれあい デイサービス事業	6(85.7)		1(14.3)		
	⑥ 健康づくり財団 アンチエイジング	5(71.4)		1(14.3)		
⑦ 生きがいサポートステーション	6(85.7)		1(14.3)			
文化体験	沖縄文化 三線サークル	4(57.1)				
	茶道サークル	6(85.7)		1(14.3)		
	那覇市内観光	4(57.1)				
	平和の礎 観光	5(71.4)		1(14.3)		
	アメリカンビレッジ&シーパーク北 谷	6(85.7)		1(14.3)		
	沖縄ワールド	6(85.7)	1(14.3)			
	美ら海水族館	5(71.4)		1(14.3)		
OPCN 学生との交流	1(14.3)					
さよならパーティと修了式	1(14.3)					

表2. 自由記載

	活動	自由記載(抜粋)
	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい歓迎会を開いていただき、とても嬉しいです。先生方や日本の学生たちがとても親切にしてくれました。
講義	「沖縄と台湾の日本の植民地」 「沖縄戦」	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深く、沖縄の歴史について深く理解することができました。 ・両方の講義はとても興味深かったです。歴史や社会学についての異なる視点を学ぶことができました。
	日本の高齢者ケアリングシステムと沖縄の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の社会保障制度を紹介して下さい、ありがとうございました！ ・台湾と異なる点もあり、特に介護保険制度については、日本の保険制度から学べることが多いと思います。
施設見学	施設全体	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての人が集える地域の居場所をつくるという考えにも深く感動しました。日本と台湾の地域ケアについてさまざまな意見を交換できたことも、とても貴重な経験でした。 ・アルコール依存症の外来クリニックがあることに驚きました。 ・日本の医療について多くのことを学びました。 ・院内の整った環境に感心しました。どの場所も清潔で、スタッフの皆さんもとても親切でした。 ・台湾の医療施設とは大きく異なっていて興味深かったです。 ・植物療法が患者のケアにどのように活かされているかを学べた。 ・このようなモデルが、特に困難な状況にある人々にも支援が届くよう、さまざまな地域で広まってほしいです。 ・高齢者の皆さんと一緒に踊ったり歌ったりすることができ、とても明るく温かい雰囲気の中で楽しい時間を過ごせました。 ・高齢者の皆さんはとても親切で、言葉の壁がある中でも温かく接してくれました。 ・学生たちが日本のよく知られている歌を1～2曲準備して、一緒に歌えるようにするとともに交流が深まると思いました。 ・健康食はとても美味しかったです！日本の政府と各機関がどのように協力して、国民の予防医療に取り組んでいるかが分かり感銘を受けました。 ・施設はとても清潔で居心地がよく、終末期の人々のための医療施設というよりも、まるで家のような感じでした。終末期ケアの使命と、ユニバーサルホスピスマインドの考え方に感銘を受けました。 ・他者のケアをする前に、まず自分自身をケアして真の自分になることを学ぶべきだと教えてくれました。

	活動	自由記載(抜粋)
文化体験	三線サークル	<ul style="list-style-type: none"> ・三線の体験はとても貴重で、とても楽しむことができました。 ・三線の体験もとても楽しいです。台湾とは全く違った感じで、新鮮でした。
	茶道サークル	<ul style="list-style-type: none"> ・茶道はとても興味深い体験でした。丁寧な準備とお茶の点て方を教えてくださりありがとうございました。 ・皆さんの浴衣姿がとても美しく、このような体験ができたことはとても良かったです。
	那覇市内観光	<ul style="list-style-type: none"> ・対馬丸記念館を訪れるのは興味深く、台湾とは全く違った感じで、新鮮でした。
	平和の礎 観光	<ul style="list-style-type: none"> ・慰霊ツアーはとても印象深く、さまざまな感情が湧きました。沖縄戦の悲惨さと人々の苦しみについて多くを学びました。 ・戦争がいかに残酷なものかを実感しました。これ以上、戦争が起こらないことを心から願っています。
	アメリカンビレッジ&シーパーク北谷	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の学生たちは本当に親切で優しく接してくれました。研修はとても楽しかったです。来月、彼らが台湾を訪れるときには、私もぜひ素敵な場所に案内したいと思います。 ・日本の学生たちと一緒に過ごせて、とても楽しかったです。
	沖縄ワールド	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の鍾乳洞の涼しさと広さを体感できて、とても楽しめました。 ・エイサーの演舞も本当に特別なものでした。伝統的な紙すき体験もできて貴重な時間でした。 ・他の学生たちにも会えてとても嬉しかったです。そして、バスを用意してくれてありがとうございました。
	美ら海水族館	<ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しい旅でした！さまざまな種類の海の魚やクジラを見ることができました。イルカショーもとても面白かったです。 ・ついに有名なクジラを見ることができました。本当に大きくて見た瞬間とても興奮しました！
	OPCN 学生との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなとても楽しく一緒におしゃべりしたり遊んだりして、とても楽しい時間を過ごせました。
さよならパーティ・修了式	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんの温かい歓迎にとっても感動しています。OPCN での素晴らしい思い出をずっと大切にします。ありがとうございました。 	

台湾学生のための沖縄研修 2025

本学のボランティア学生を対象としたアンケート調査報告

I 目的

沖縄県立看護大学の学生がボランティアの課外活動を通して、台湾の学生との交流に対してどのように評価されたのか。それらの情報を収集・分析を行い、次回の活動をより充実させるための資料とすることを目的として調査を実地した。

II 方法

1.対象者:OPCN プログラムへ参加した本学のボランティア学生 27 名。

3 年生 15 名、2 年生 11 名、4 年生 1 名

2.調査方法 活動終了後に、フォームスの QR コードを送付し、無記名による回答を依頼した。

3.調査内容

参加した活動、活動に参加した満足度を 5 段階(5.非常に満足、4.満足、3.どちらでもない、2.不満、1.非常に不満)で評価を求めた。また、その評価に至った理由など自由に記述を求めた。

4.調査期間:2025 年 7 月 28 日から 8 月 15 日

III 結果

1.回収率:27 名中 18 名(66.6%)の回答であった。

参加者は 27 名であるが、複数の活動に参加した学生の延べ人数は 44 名であった。

2.回答者の約9割が満足したとの回答であった。その内訳は、「非常に満足」が 14 名(77.8%)、「満足」が2名(11.1%)、どちらともいえない、非常に不満足が各 1 名であった。

3.自由記述

「非常に満足」、「満足」を『満足群』とし、それらの自由記述は 15 件あった。「どちらともいえない」「非常に不満足」と回答した者の自由記述は 2 件であった。

1)『満足群』の自由記述を内容ごとに分類した結果、5 つのテーマが抽出された。

(1)沖縄の伝統文化である三線や日本の文化である茶道を教えることを通しての学びと喜び

- ・英語が上手く話せなくても、(三線)音楽を通し、一つの曲を完成し(弾けたこと)ができ、楽しかった、や茶道を通して、台湾の学生いろいろと興味を示してくれて嬉しかったなど
- ・茶道を通して、台湾の学生いろいろと興味を示してくれて嬉しかった

(2)沖縄の伝統文化などを通して、台湾の学生が興味関心を示し、積極的に質問を行

い、拙い英語での説明でも意図をくみ取るなどの相互交流が持てた喜び

- ・英語があまりできなくて焦る場面もあったが、台湾の学生が積極的に質問してくれて嬉しかった
- ・台湾の学生が茶道を積極的に楽しんで嬉しかったし、台湾のことも教えてもらいよい文化交流ができたコミュニケーションをとることができてよかったなど

- (3) 沖縄の特色がある施設を巡り、共に体験を通しての交流の楽しみと学び
 - ・エイサーや沖縄の昔の家などもあり、沖縄を知ってもらいたいところであった
 - ・写真を撮ったり、体験する施設で、自然に仲が深まった など
- (4) 国際交流への積極的な参加への意欲の表明
 - ・機会があれば、異文化交流など積極的に参加したい
 - ・刺激を得て、楽しく過ごせ、良い交流になった
- (5) 台湾研修への参加に向け、相互交流が図れるように語学力の向上への意欲の高まり
 - ・台湾研修に向けて、語学をさらに高める決意をする
 - ・拙い英語でもコミュニケーションがとれ、より仲良くなりたい気持ちが語学をもっと学びたい気持ちにつながった など

2)「どちらともない」「不満足」の自由記載

(1) 期間や施設などの配慮が必要

- ・暑さが厳しいので、対策が整っている場所の案内がよい
- ・テスト前であった

IV 考察

沖縄の伝統文化である三線や日本の文化である茶道について、本学の学生(サークルの学生)は、台湾の学生に英語で紹介し、文化体験を提供する機会を設けていた。文化を教えるという能動的な活動を通して、学生は教えることの楽しさや学びを得ていた。また、台湾の学生が沖縄・日本の文化に興味関心を示し、積極的に質問をおこない、本学の学生の説明の意図をくみ取ろうとする積極的な相互交流を通して、互いに学び合うことの大切さを感じたと考える。

沖縄の特色がある施設(美ら海水族館、沖縄ワールド、北谷シーワールド)で台湾の学生と共に過ごし、共に体験することで、楽しみの共有をおこない有意義な交流が持てたと考える。

本学の数名の学生は、来月の台湾研修に向けて、より相手を理解したいという気持ちが強くなり、共通言語である英語力の向上および相手の母国語である中国語を学びたいという語学力の向上への意欲を抱いたと考える。

課題としては、台湾の学生が本学のプログラムに参加するのは、7月中旬から下旬の時期になるため、暑さ対策がある施設の選定や本学の期末試験1週間前にあたることから、学生の負担感を軽減し、有意義な交流となるような内容や方法の検討が明らかとなった。

V まとめ

本アンケート調査の分析から、本学の学生が台湾学生との交流を通して、共に学ぶことの楽しさなどを感じ、さらに、相手を理解するために語学力の向上などの意欲に繋がっていたことが明らかになった。

国際交流の機会をもつことは、本学の学生にとって有意義なことであることや、改善すべき点も明らかになった。来年度以降の学生間の国際交流をより充実したものにするためにプログラムの内容の検討が示唆された。

表 1. 本学のボランティア学生における交流の評価

活動内容	参加人数	非常に満足 人数(%)	満足 人数(%)	どちらとも いけない 人数(%)	不満 人数(%)	非常に不満 人数(%)
三味線サークル	4	4(100.0)				
茶道サークル	6	3(50.0)		1(16.7)		
アメリカンビレッジ・ シーパーク	6	3(50.0)				
沖縄ワールド	4	2(50.0)		1(25.0)		
美ら海水族館	6	1(16.7)	2(33.3)			
交流会	12	1(8.3)				
修了式	6					1(16.7)
延べ参加人数	44					

表 2. 本学のボランティア学生の自由記述

自由記述	要約	テーマ
英語が上手く話せなくても、音楽を通してみんな で1つの曲を完成できてとても楽しかったです 終わった後にお喋りもできて良い交流になった	英語が上手く話せなくても、(三線) 音楽を通し、一つの曲を完成し(弾け たこと)ができ、楽しかった	沖縄の伝統文化 である三線や日 本の文化である
沖縄の伝統文化である三線を通して、台湾の学 生たちと交流できたことが楽しかったです	沖縄伝統文化の三線を通して、台湾 の学生と交流が楽しかった	茶道を教えること を通しての学びと 喜び
茶道を通して、いろいろなことに興味を持ってく れたのがとても嬉しかった。私たち日本人ですら 難しい日本語も覚えていたのはすごいと思った	茶道を通して、台湾の学生いろいろ と興味を示してくれて嬉しかった	
英語があまりできなくて焦った場面もありました が、台湾の方も積極的に質問等してくださったの が嬉しかったです	英語があまりできなくて焦る場面もあ ったが、台湾の学生が積極的に質問 してくれて嬉しかった	沖縄の伝統文化 などを通して、台 湾の学生が興味
英語が苦手であり上手く喋れなかったが、私の 話していることを汲み取ってくれてコミュニケーション を取ることができたので良かったです	英語が苦手でもうまく話せなかったが、 台湾の学生が話の意図をくみ取って コミュニケーションをとることができた	関心を示し、積極 的に質問を行い、 拙い英語での説 明でも意図をくみ
台湾の学生さんが積極的に茶道を楽しんでいて 嬉しく感じた。私たちも台湾の言葉を教えてもら い、良い文化交流ができたと思う	台湾の学生が茶道を積極的に楽し んで嬉しかったし、台湾のことも教え てもらいよい文化交流ができた	取るなどの相互 交流が持てた歓 び
こういう機会があれば是非参加したい 終わった後にお喋りもできて良い交流になった	機会があれば、異文化交流などに参 加したい	

自由記述	要約	テーマ
英語があんまり伝わらなくても、台湾の学生が日本語で話してくれたり、ジェスチャーで伝えようとしてくれたりして、コミュニケーションが取れました。みなさん明るい性格で、シーパークでもとても楽しめました!!	英語が伝わらなくても、台湾の学生が日本語やジェスチャーしてコミュニケーションが弾み楽しめた	沖縄の特色がある施設を巡り、共に体験を通しての交流の楽しみと学び
おきちゃん劇場をみて楽しそうなりアクションしてくれて嬉しかったです!	おきちゃん劇場をみて楽しそうなりアクションをみて嬉しかった	
写真を撮ったり、体験したりする場所が多い施設だったので自然と仲が深まったと思います。エイサーや昔の家もあったので沖縄のことを知ってくれるいい場所だと思いました	英語が伝わらなくても、台湾の学生が日本語やジェスチャーしてコミュニケーションが弾み楽しめた	
エイサーや昔の家もあったので沖縄のことを知ってくれるいい場所だと思いました	エイサーや沖縄の昔の家などもあり、沖縄を知ってよかった	
普段、国際交流をする機会がほとんどないので、英語や中国語で会話したり、異なる価値観を感じれたり、一緒に遊ぶことができとても貴重な経験ができ、楽しかったです	国際交流の機会が乏しいが、今回(台湾の研修生と)会話し、異なる価値観を感じたり、一緒に遊ぶことが貴重な体験であった。今後は異文化交流など積極的に参加したい	
他の国の方と交流する機会は初めてでとても刺激になりました	初めて、異国の文化と交流することで刺激となった	
バスの送迎があるおかげで移動中も交流できてよかったです	バス送迎があり、移動中も交流ができた	
同じような機会があれば積極的に参加していきたいと思っております	機会があれば、異文化交流など積極的に参加したい	国際交流への積極的な参加への意欲の表明
こういう機会があれば是非参加させて頂きたい		
すっごく楽しくて刺激を貰えました! 終わったあとにお喋りもでき良い交流になった	刺激を得て、楽しく過ごせた	
コミュニケーションを通して自身の英語力を把握できたので、来月の研修に向けてもより勉強をしていきたいと思いました	台湾研修に向けて、語学をさらに高める決意をする	台湾研修への参加に向け、相互交流が図れるように語学力の向上への意欲の高まり
台湾研修ではもっと仲を深められるように頑張る		
台湾研修ではもっと仲を深められるように(語学を)頑張りたい		

自由記述	要約	テーマ
<p>自分の拙い英語でもコミュニケーションを取ることができたが、もっと仲良くなりたいという気持ちが言語を学ぼうという意欲に繋がったのでとても良い経験になったと感じた。</p>	<p>拙い英語でもコミュニケーションがとれ、より仲良くなりたい気持ちが語学をもっとまなびたい気持ちにつながった</p>	
<p>英語や台湾語を実践して、もっと会話できるようにしたいと思いました。</p>	<p>英語や台湾語でもっと会話したい</p>	
<p>暑さが厳しかったので、もっと涼しく、暑さ対策が整っている場所を案内した方が良かった テスト前であった</p>	<p>暑さが厳しいので、対策が整っている場所の案内がよい テスト前であった</p>	<p>期間や施設などの配慮が必要</p>

2025 年度 国際交流室運営委員会メンバー(敬称略)

謝花小百合(委員長)

山口賢一(副委員長)

知念久美子

眞浦有希

山城綾子

伊波良剛

宮城裕子

下中壽美

屋宜佳成

有銘恭子

浅野香織(事務局)

片山敬身(事務局)

資料1 プログラムの概要

OPCN Program for Taiwanese Students 2025

July		13 Sun	14 Mon	15 Tue	16 Wed	17 Thr	18 Fri	19 Sat
AM			Orientation Introduction to OPCN, TMU and NTUNHS, respectively, by the students Campus Tour Welcome Lunch	Lecture① "Japanese Colonial Governance of Okinawa and Taiwan: Roles of Modern Institutions" Lecture ② "Okinawa History and Artifacts"	Excursion ① Peace Memorial Tour with OPCN students -Former Japanese Underground Headquarters -Lunch -Peace Memorial Park -Himeyuri Peace Memorial Tower	Facility visiting ① Rehabilitation Center -Director's lecture "About TAPIC" -Hospital tour "Natural therapy" at Tonan Botanical Garden	Lecture ③ "Japanese caring system for elderly people and the current picture in Okinawa" Facility visiting ② Medical Center Facility visiting ③ The House Accommodation for sick kids and their families	Free
PM			Enjoying Japanese culture with OPCN students ・Sarashin (Okinawan guitar) Excursion② Naha City Tour -Shrine -Beach -Toshima-maru Memorial Museum -Market	Facility Visiting ③ community Home				
	20 Sun	21 Mon	22 Tue	23 Wed	24Thr	25 Fri		
AM		Excursion ④ Okinawa Ocean Expo Memorial Park -Aquarium -other exhibitions	Facility visiting ④ Day-service at Heritagees Community Center in Naha	Facility visiting ④ Health Center -Health check facilities	Facility visiting ④ Home Station -Lecture: "Universal Hospice Mind" -Visiting service users'home -Visiting healthcare Facilities	Activities with OPCN Students -Asian Health Care Study Circle -Island Traveling Circle -Some Games (introduced by Taiwanese Students)		
PM			Excursion ⑤ Enjoy! Okinawan culture at Shuri -Experience of bigata -Learning tea ceremony -Shuri Castle	Preparation for Graduation Presentation	-Lectures "About legal group's vision"	Farewell Lunch Graduation Ceremony		

資料2 プログラム全体のタイムスケジュール

OPCN Program for Taiwanese Students 2025

台湾学生のための沖縄研修 2025

学生研修プログラム日程

日 時 : 2025年7月14日(月)～7月25日(金)

研修場所 : 沖縄県立看護大学

住 所 : 沖縄県那覇市与儀1丁目24-1

電話番号 : 098-833-8800(代)

研修生人数: 学生7名(台北医科大学:2名 : 護理健康大学:5名)

日程:

*Hotel: 朝食 6:30-8:00

	月 日	時 間	学 習 内 容	役割及び担当者
1日目	7/14(月)	6:30-8:30	朝食	
		8:30	OPCNへ出発	
		8:45	OPCN到着 控室: 講義室1	担当: 山口
		9:00-9:50	場所: 講義室2	
			オリエンテーション (誓約書・日程表など)	台湾(医科大学、護理大学、OPCN) 担当: 山口
		10:00-11:00	ウェルカムパーティー ・本プログラムの日程を説明&担当者の紹介 ・懇談 ・研修生挨拶、大学の紹介	担当: 山城 委員は10:00からのウェルカムパーティーへ参加
		11:00-11:30	キャンパスツアー	担当: 山口
		11:30-12:45	ランチ	担当: 山口

	月 日	時 間	学 習 内 容	役割及び担当者
		13:00-14:00	三味線サークル体験	担当：知念
		14:00	市内観光 波の上宮、対馬丸メモリアル 平和通り 識名園見学など	担当：山口・佐伯 (市バスで移動)
		17:30	ホテルへ	
2 日目	7/15 (火)	6:30-8:00	朝食	担当：山口
		8:30	OPCN へ出発	
		8:45	OPCN 到着 待機室：講義室 1	
		8:45-9:00	健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答	
		9:00-10:00	講義①山口 講義室 2	
		10:10-11:10	講義②山口	
		12:00 - 13:00	昼食	
		13:30	施設見学へ出発	
		13:50	施設へ到着	
		14:00-15:00	施設見学①：ゆんたくばーめぐみ	担当：有銘
		15:00-16:00	施設で利用者とのふれ合い 地域密着型で地域で連携している場所 への案内	逐次通訳（半日） 通訳：現地で待ち合わせ
		16:00	大学にむけて出発 到着後解散	施設から大学へ

	月 日	時 間	学 習 内 容	役割及び担当者
3 日目	7/16 (水)	6:30-8:00 8:30 8:45 9:00-9:30 9:30-16:00 17:00	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室 1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 学長表敬訪問 沖縄の文化体験 平和の礎ツアー ホテルへ	担当：山口 担当者：山口 玄関前：
4 日目	7/17 (木)	6:30-8:00 8:30 8:45 9:00 10:00-12:30 12:30-14:30 14:30 17:00	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室 1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 出発 施設見学②：医療法人タピック 沖 縄リハビリテーションセンター病 院 お昼と移動 美らヤシパークオキナワ・東南植 物楽園 大学へ向けて出発	担当：知念 担当：眞浦 逐次通訳（1日）
5 日目	7/18 (金)	6:30-8:00 8:30 8:45 9:30-11:00	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室 1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 講義③田場先生 講義室 2	担当：山口 通訳（半日） 担当：山口 通訳：本学

	月 日	時 間	学 習 内 容	役割及び担当者
		11:00~11:40 11:45 11:51 12:20 12:30-13:50 14:00-16:00 16:00	昼食 玄関前集合 大学前出発（那覇バス2番） 正面玄関 集合 施設見学③：南部医療センター・ こども医療センター 施設見学 ↓ ガジュマルの家 見学 本学へ（市バス or タクシー）	担当：知念 通訳：現地で待ち合わせ 担当：屋宜
6 日目	7/19（土）	6:30-8:00 9:30 9:45 10:00-12:00 12:00-13:00 13:00-15:00 15:00	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：大会議室 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 バス出発時間 本学学生と観光 アメリカンビレッジ 昼食 シーパーク北谷 ホテルへ	学生ボランティア 担当：山口
7 日目	7/20（日）	6:30-8:00 8:30 8:45 10:00 18:00	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 バス出発時間 沖縄ワールド 本学学生と観光 ホテルへ	学生ボランティア 担当：山口

	月 日	時 間	学 習 内 容	役割及び担当者
8 日目	7/21 (月)	6:30-8:00 8:30 8:45 10:00 15:30	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室 1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 バス出発時間 沖縄文化体験③美ら海水族館他) ホテルへ	担当；山口 学生ボランティア
9 日目	7/22 (火)	6:30-8:00 8:30 8:45 ~9:45 10:00 - 11:30 11:30-14:00 14:00-16:30 16:30	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室 1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 施設到着 施設見学⑤ 那覇市社協力 地域ふれあいデイサービス事業 昼食および移動（大学へ戻る） 沖縄文化体験@本学 茶道サークル 解散	担当：眞浦 逐次通訳（半日） 通訳：現地で待ち合わせ 調整：宮城 担当：山口
10 日目	7/23 (水)	6:30-8:00 8:30 8:45 9:20 10:00 - 12:00 12:30 - 13:30 13:45 14:00 16:00	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室 1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 施設見学へ出発 施設見学：沖縄県健康財団 昼食アンチエイジング定食 OPCN へ戻る 学生プレゼンテーション準備 ホテルへ	担当：伊波 逐次通訳（半日） 通訳：現地で待ち合わせ 担当：山口 場所：講義室 1

	月 日	時 間	学 習 内 容	役割及び担当者
11 日目	7/24 (木)	6:30-8:00 8:30 8:45 9:00 11:00-12:30 12:30-13:30 13:30-15:30 15:30-17:00 17: 15～ 18 : 30	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：講義室 1 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 大学出発（移動） いきがいサポートステーション 講話：「ホスピスマインド」 講師：長野 宏明先生（医師） 昼食（施設内でとる予定） *配達弁当を注文予定 ①クライアントの訪問看護同行 ②施設見学 講話：「いきがいグループの理念」 講師：親泊 朝光氏（COO） 施設から大学へ移動 大学到着 解散	担当：下中 担当下中 逐次通訳（1日） 通訳：現地で待ち合わせ
12 日目	7/25 (金)	6:30-8:00 8:30 8:45 9:30-11:30 11:30-13:00 13:00-13:30	朝食 OPCN へ出発 OPCN 到着 待機室：大会議室 健康チェック・体温等記載 ・前日のアンケート評価への回答 OPCN 学生との交流 アジア保健サークル たびんちゅサークル お別れランチ会 OPCN 学生 8 名参加予定 修了式 大会議室	担当：伊波 担当：山城／伊波 担当：山城 担当（学務 浅野）

資料3 修了式プログラム

台湾研修プログラム修了式次第

the Student Exchange Meeting of the Taiwan Training Program

~修了式 GRADUATION CEREMONY~

令和7年7月25日（金）

時 間：13:00-13:30

場 所：大会議室

司 会：山城綾子

1. 参加者による発表 Participants Presentations

2. 学長による送別の挨拶

A Farewell Address by the President of OPCN

3. 修了証書の授与

Certificates of Completion Presentation

4. 記念集合写真の撮影 Ceremonial Group Photograph

資料 4 修了証書



Okinawa Prefectural College of Nursing
Certificate of Completion

This certificate is awarded to

National Taipei University of Nursing and Health Sciences

who has successfully completed
a two-week course of study at Okinawa Prefectural College of Nursing.
This course is based on the International Program agreements between
Okinawa Prefectural College of Nursing and National Taipei University of
Nursing and Health Sciences

July 14 - July 25, 2025

Midori Kamizato, President
Okinawa Prefectural College of Nursing



Sayuri Jahana, Chair
International Committee